

健康科学研究科 言語聴覚学専攻 修士課程

健康科学研究科 健康科学専攻 言語聴覚学分野 博士課程

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各研究科・専攻は、それぞれの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、専門領域ごとの特色を活かした教育方法による教育・研究を行っています。教育方法の特色ある工夫としては、入学生に社会人が多いことを活かしたフィールドワーク研究を推奨し、研究の成果を社会に還元できることが挙げられます。

【教育方法】

近年、社会の高齢化、医療技術の進歩・高度化にともなう疾病構造の変化や社会システムの変化等にもない、言語聴覚療法のニーズが多様化しています。健康科学研究科言語聴覚学専攻では、これらの社会状況をふまえ、人間のコミュニケーションの発達とその障がいに対する豊かな学識をもち、多面的視点から諸問題をとらえ、広い視野をもって言語聴覚学領域の臨床や研究を行い、地域社会に貢献できる人材の育成をめざします。そのために、理論面を中心とした授業と実践面応用面に力点を置く授業のバランスを考えた科目構成で教育を行っています。また、それぞれの研究テーマを掘り下げ、研究計画の立案から論文作成まで、研究技能の修得を図りながら指導を行っています。

【教育の特色ある工夫】

- ・言語聴覚学専攻では、研究分野を「言語聴覚学」「言語聴覚障害学」「言語聴覚療法学」の三つに分け、それぞれの研究分野で豊富な臨床歴、研究歴を持つ教員が研究指導をおこなう態勢を整えています。
- ・「言語聴覚学」では言語・コミュニケーション機能について、生涯発達という視点から学び、言語聴覚障害研究の基礎力を養っています。
- ・また「言語聴覚障害学」では言語・コミュニケーションの諸問題を多面的視点から評価・分析するための最新の知識と研究方法を修得し、対象者の抱える問題を包括的に解釈する力を養っています。
- ・そして「言語聴覚療法学」では、機能訓練の技法や包括的な支援についての方法論を研究し、臨床での実践能力を養っています。
- ・この3分野での学修を通して人間のコミュニケーションの発達とその障害に対する知識と専門性の向上を目指しています。

【健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）教育の特色ある工夫】

- ・健康科学専攻の中には修士課程の7専攻に対応した七つの分野（鍼灸学、柔道整復学、健康栄養学、言語聴覚学、作業療法学、理学療法学、病院前救急医療学）があり、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性が保たれています。
- ・人を対象にした研究が主になるので、研究倫理全般と臨床研究の倫理を理解・修得するためにeラーニングを用いて教育を行っています。
- ・研究自体は各院生が指導教員と相談・議論しながら進めますが、多様な医療職種の院生が共に学ぶ本専攻では、専門の枠を越えて他職種を理解し連携力を身につけることで、健康科学の広い視野に立って臨床や教育・研究の場で活躍できる人材を育成できると考えています。